



(だいこく) (さま)

「大黒様」

石原和三郎 作詞・田村虎蔵 作曲

『尋常小学唱歌 第二学年中』

明治三八年（一九〇五年）

漢字を多くしてみました。

一、

(おお) (ふくろ) (かた) (か)
大きな袋を肩に掛け
(だいこく) (さま) (きか)
大黒様が来掛かると
(いなば) (しろ) (うさぎ)
ここに因幡の白兔
(かわ) (む) (あか) (はだか)
皮を剥かれて 赤裸

三、

(だいこく) (さま) (い)
大黒様の言うとおり
(きれい) (みず) (み) (あら)
綺麗な水に身を洗い
(がま) (ほわた) (くる)
蒲の穂綿に包まれば
(うさぎ) (もと) (しろ) (うさぎ)
兔は元の白兔

二、

(だいこく) (さま) (あわ)
大黒様は哀れがり
(きれい) (みず) (み) (あら)
「綺麗な水に身を洗い
(がま) (ほわた) (くる)
蒲の穂綿に包まれ」と
(おし)
よくよく教えて やりました

四、

(だいこく) (さま) (たれ)
大黒様は誰だろう
(おおくにぬし) (みこと)
大国主の尊とて
(くに) (ひら) (よ) (ひと)
国を開きて世の人を
(たす) (かみ) (さま)
助けなされた 神様よ